# 素材と文様

Material and Pattern **Key-words**: Material, Nature, Individual

## 土本 訓寛

Michihiro DOMOTO (Echizen)

### 1. はじめに

越前で陶器を作る仕事をしている。

我が家の器を作る技法の中の一つに筆者が造形した 物に妻が象嵌して作る器がある。今回はその象嵌に関 してどのように考えているか、また可能性について掘 り下げてお伝えできればと思う。

まず柳宗悦著焼き物の本より象嵌の項の最初の部分を抜粋してみたい。「之は焼物に加えられた文様の手法として、又忘れ難い物の一つであります。西洋のタイルなどにも象嵌紋が見られますが、なんと云ってもこの手法を最も多く又最も美しく、また最も効果的に用いましたのは、高麗の青磁や李朝の三島でありました。文字が示します通り象(かたち)が中に嵌(はめ)込まれたものでありまして、内に潜むためか、誠に調



図1 赤土に文様を掘ったところ



図2 白土を塗り削り出すと文様が現れる

子の穏やかな趣を示します」とはじまる.

工程はまず造形した赤土の素地に埋め込みたい文様を彫り(図1), そこに白土を塗り込む. そののち削り出す(図2)と, 掘ったところに白土が埋め込まれた状態になる. 土と土の対比で文様を生み出すことができるのが特徴である.

#### 2. 文様の起源

次に文様のことをもう少し考えてみたい. 花喰い鳥という文様がある. 辞典には「装飾文様の一つ. 瑞鳥が葉の枝をくわえたもの. ササン朝ペルシャに起源があり, 正倉院御物の工芸品などに見られ, 松喰鶴などの文様に発展した」とある. また起源説の一つには聖書創世記8章, 大洪水の後のノアのもとにハトがオリーブの葉をくちばしにくわえて帰ってくることで全地から水が引いたことを知ったというカ所を上げる方もいる. 西洋, 東洋, 時代に関わらず共通の感受性が表れているようで面白いモチーフである.

文様はこのように人類の交流の歴史でもあり、共有できる物語のようでもあるように感じられる。平安時代に常滑の影響で越前でも三筋壺と呼ばれる壺を作っていた。その装飾の目的は諸説あるが歴史と空間の連続性の中で何らかの共有の物語を持っていたこと、そのことを壺が人々をつなぐネットワークになっていたであろうことが、筆者には興味の対象となっている。

### 3. 文様の働き

では今の時代に文様にどのような働きが期待できる のだろうか?共有できる物語を豊かにはぐくむ可能性 をどのように考え、仕事に生かせるのだろうか.

筆者らの器は地域や風土から多くの影響を受けているが、ごく個人的な見解が占める割合も多いように思う、そこで仕事にとっての個とは何かを考えてみると「結果的な個」があると感じられる。個から出発して表現するというのではなく、すでに存在している、または与えられているものが個に向かってくる感じといえばいいのだろうか。土や薪は自然のもの、技法や文様は先人の知恵や物語から、使っている薪窯のこと等は先輩から教わった。いろいろな形で与えられたものを自分の体と発見を通して作る結果に個が現れてくるという感じである(図3)。

その後、自分を通してできた器が人の手にわたり、 その器、またそこに施された文様が、使う人々の中で 物語として育まれていけばいいなと夢想する。素材と 人が結び付き個体としての器が生まれ、器(文様)が 人と結びつき新しい物語が生まれる….



図3 薪窯焼成



図4 花喰い鳥紋瓶



図5 原土を掘る



図6 薪を割り乾かす

理想は膨らむがこのような個人的な思いが都合よく 実現することが難しいことはすぐに理解できる. いつ の時代も新しい物語は個人的な思いからではなく人と 人,人と社会,文化や風習から生まれているからであ る.今の時代にも同じように新しい物語が自然と繰り 返し生まれる土壌が豊かにはぐくまれ続けることを願 うばかりである.

そのように考えると器や文様を生かす真の素材はいつの時代も人と社会、文化や環境なのだと気付かされ、日々熱心に器を作り続ける必要性に立ち戻るのである(図4~図6).

#### 4. おわりに

最後に柳宗悦著焼き物の本より象嵌の項の続きを抜 粋して終わりたいと思う.

「手法が間接又間接となって、模様は人間が考えたと致しましても、ぢかには現れず、一旦自然に戻されてから現れて参ります.それ故自分以外のもの、自分以上のものが出るとでも申しませうか.企んだり、狙ったりしたとて、そんなものでないものが出て了うのであります.象嵌には誠に自然の救いが、音もなく出て参ります」

#### 筆者紹介

土本 通寛 (どもと みちひろ)

越前焼の産地で薪窯焼成による焼き締め、象嵌の器を作っている. [連絡先] 〒 916-0273 福井県丹生郡越前町小曽原 111-15

E-mail: domoto@ur.ttn.ne.jp